

一可尾史集編



俳諧叢句六百題

東京書肆

弘文館藏版

西行上人奉國修りのをうらうら子歌集勅撰乃
よしゆきいこは歌く都にまゝのりまゆあふ
友達よあやうらうらたまき身ま阿それと心れ
まら略三海乃歌中おまらこのお撰入ありしや
しつまきもは歌歌とらるるをなれしとらん
しるれらうらうらと勅撰かしとてしと目了
かきしとよしはしとまきしとあつと引之
まららうらうらや又東京書肆支考國東乃撰しる


為り芭蕉翁乃落枿舎より
 おまゝにこれのまゝに
 とて牛乳の急は驚く
 したまはれはるる
 白素とに解せらるる
 冷しうれと翁やありて
 支考らむは可き
 も此らり一白作たり

昔むさく垣根をれ
 井のまゝに白結つ
 眼乃まゝより冷汗を
 撰集のまゝに
 然る象悟ある
 百首の海に
 昔も侍よ
 橋本

ことわりなきをいふまゝに 入白乃作者の
 支考の心をいふまゝに 是れをいふまゝに 見我の
 おもひ哉ねむらひの 撰者みよしの
 ことわりなきをいふまゝに 今らた二の 乃信を
 のはけしは 換ふまゝに 是れをいふまゝに
 ともいふまゝに 同舎和合し 風雅乃の 乃信を
 考撰のまゝに 是れをいふまゝに 乃信を
 ともいふまゝに 是れをいふまゝに 乃信を

まゝ事始乃新し 為成意のをいふまゝに
 考撰のまゝに

又後一具

門書字書


花のさぬくふ異世数なるをよりのけい路に
 此種海舟をわくをたを喜のよりのけい路に
 ありしや——あるがごとくありしや——くきりのまを
 記しあるも心づかぬおのれを撰たき
 けい路のこゝろに人ありて甲乙の別
 なきや——あるがごとくありしや——くきりのまを
 する能く考へしは凡そ事あるもあはれ
 よむるおのれをたを喜のよりのけい路に
 何れはまたあるがごとくありしや——くきりのまを
 ありしや——あるがごとくありしや——くきりのまを
 勿れ可なりと撰者乃ちありしや——くきりのまを
 作者の志れあるがごとくありしや——くきりのまを
 おのれに友誼の如くありしや——くきりのまを
 ありしや——あるがごとくありしや——くきりのまを
 九百題の二集あり——名家の二集あり——くきりのまを
 おのれをたを喜のよりのけい路に

すねをさるるのわりのくしををいともむこれひき
くしをいひて心越えんて心とあはれをそとむる
まはれをいひて心越えんて心とあはれをそとむる
まはれをいひて心越えんて心とあはれをそとむる

海翠堂外書



俳諧叢書六分題目次

歳旦並春之部

初鳥	一	春立	一	初喜	一	今初喜	一
春	二	初代喜	二	四方喜	二	初空	二
初日	二	初屠	三	門松	三	編飾	三
餅湯丸	三	福具	三	鏡餅	三	福寿州	四
茶室	四	年始	四	孔者	四	雑煮	五
大福	五	屠蘇	五	喰積	五	歯固	五
足干蘭	五	惚肴	六	数子	六	初若菜	六
初夢	六	寐積	六	肴之始	六	羽子	七
手筈	七	弓始	七	儀初	七	舟乗初	七
手玉	七	賣初	七	買初	七	初荷	七

正月	八	福引	八	正月	八	三ヶ日	八
正月	九	曉月	九	二月	九	如月	九
正月	十	子日	十	二月	十	如月	十
正月	十一	粥杖	十	二月	十一	如月	十一
正月	十二	蕨入	十一	二月	十二	如月	十二
正月	十三	春雨	十二	二月	十三	如月	十三
正月	十四	雪解	十三	二月	十四	如月	十四
正月	十五	陽炎	十四	二月	十五	如月	十五
正月	十六	喜山	十五	二月	十六	如月	十六
正月	十七	二百各	十六	二月	十七	如月	十七
正月	十八	萩結	十七	二月	十八	如月	十八
正月	十九	善途	十八	二月	十九	如月	十九
正月	二十	別家	十九	二月	二十	如月	二十

正月	廿一	夏際	廿一	正月	廿一	正月	廿一
正月	廿二	梅	廿二	正月	廿二	正月	廿二
正月	廿三	若州	廿三	正月	廿三	正月	廿三
正月	廿四	山葵	廿四	正月	廿四	正月	廿四
正月	廿五	莖	廿五	正月	廿五	正月	廿五
正月	廿六	初志	廿六	正月	廿六	正月	廿六
正月	廿七	糸極	廿七	正月	廿七	正月	廿七
正月	廿八	極	廿八	正月	廿八	正月	廿八
正月	廿九	菊根分	廿九	正月	廿九	正月	廿九
正月	三十	若鮎	三十	正月	三十	正月	三十
正月	三十一	若鮎	三十一	正月	三十一	正月	三十一
正月	三十二	若鮎	三十二	正月	三十二	正月	三十二
正月	三十三	若鮎	三十三	正月	三十三	正月	三十三
正月	三十四	若鮎	三十四	正月	三十四	正月	三十四
正月	三十五	若鮎	三十五	正月	三十五	正月	三十五
正月	三十六	若鮎	三十六	正月	三十六	正月	三十六
正月	三十七	若鮎	三十七	正月	三十七	正月	三十七
正月	三十八	若鮎	三十八	正月	三十八	正月	三十八
正月	三十九	若鮎	三十九	正月	三十九	正月	三十九
正月	四十	若鮎	四十	正月	四十	正月	四十

燕蝶	世三	肉扇	世四	行扇	世四	引扇	世四
鳥入	世四	蝶	世五	蛇	世五	蜂	世五
蚕	世五	蛙	世六	狸	世六	落角	世六
孕	世六	喜明你	世六				
		夏之部					
更衣	一	初衫	一	綿拔	一	潼佛	二
夏書	二	夏籠	二	筑	二	大矢	二
葵祭	二	夏	二	一夜	三	夏夜	三
短夜	三	明	三	扇	四	紙	四
五月	四	初	四	懺	四	飾	五
藥玉	五	草	五	糝	五	松	五
印地打	五	競馬	六	席雨	六	有	六

青	六	五月	六	四	七	早	七
青	七	照	八	扇	八	竹	八
本	八	日	八	汗	八	汗	八
扇	九	扇	九	祇	十	針	十
嘉	十	雨	十	水	十	心	十
一夜	十	冷	十一	手	十一	夏	十一
暑	十二	炎	十二	口	十二	夕	十二
涼	十三	納	十三	納	十三	打	十四
晒	十四	清	十四	川	十四	形	十五
川	十五	祈	十五	郭	十五	閑	十六
老	十六	鷲	十六	鷲	十六	鷲	十六
鷲	十六	浮	十七	鴨	十七	羽	十七

通鴨	十七	蝙蝠	十七	初蟄	十七	蟄	十七
蝮	十八	毛虫	十八	子子	十八	水馬	十八
蛭	十八	蠅	十八	蚊	十九	蚊	十九
過牛	十九	蜂	二十	蒼子	二十	袋角	二十
若葉	二十	景核	廿一	槲實	廿一	病葉	廿一
杉樹	廿一	茂	廿一	桑柳	廿二	桐の皮	廿二
檜	廿二	柚花	廿二	卯	廿二	牡丹	廿三
芍藥	廿三	杜若	廿三	南天花	廿三	名	廿四
柿	廿四	竹植	廿四	篠子	廿四	筍	廿四
栗の花	廿五	桜の花	廿五	茨花	廿五	紫陽花	廿五
桐子	廿六	石竹	廿六	芍梅	廿六	棠實	廿六
初茄子	廿六	茄子	廿六	百合花	廿六	棠附	廿六

夏州	廿六	苜蓿	廿七	酸漿	廿七	花	廿七
夕白	廿八	菖蒲	廿八	芒草	廿八	石葛	廿八
淨潔	廿八	夏草	廿九	藻	廿九	萍	廿九
菱花	廿九	若竹	廿九	鵝花	廿九	葎	三十
浮葉	三十	蓮	三十	夏朗	三十		

秋之部

初秋	一	秋成	一	秋暑	二	稻妻	二
初嵐	二	初月	三	火	三	天川	三
袋小袖	四	秋糸	四	立	四	西瓜	四
刺鱈	四	燻来	四	盆用	四	芋壳	四
芋市	四	高燃籠	四	干菜盆	五	迎火	五
送火	五	大文字	五	魂	五	角力	六

秋野	今年米	稲舟	二百十日	秋	扇置	雨月	今の月	幼沙	秋空	八朔	穂屋祭
十六	十五	十五	十四	十二	十二	十一	十	八	七	六	六
秋山	新米	落穂	鳴子	秋香	核置	十六日	月今宵	秋海	立田娘	繪水	八月
十六	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	八	七	七	六
九月	秋葉	子付稲	田菊	秋の水	秋懶	小望月	月見	名月	旁	駒曳	系月
十六	十六	十五	十五	十四	十二	十二	十	九	八	七	六
新々	秋の和	粗苧	綿菊	野分	故屋	忘初	月の夜	月夜	秋風	司召	月秋
十七	十六	十五	十五	十四	十二	十二	十一	九	八	七	六

梅嫌	松茸	百引菜	惣	早稲	萩花	九月考	露守	柚	柿	後月
廿六	廿五	廿五	廿四	廿三	廿一	廿一	十九	十九	十八	十七
兼	菌	菘花	雀麦	稲花	木犀	桐一系	露時雨	柚味噌	木実	升市
廿六	廿五	廿五	廿四	廿三	廿二	廿一	十九	十九	十八	十七
柿即系	茸狩	初茸	尾花	芋	芙蓉	女吊花	冬秋	釣苺	推実	清辻宮
廿七	廿六	廿五	廿四	廿四	廿二	廿一	二十	十九	十八	十七
子即系	芦花	紅茸	そとの巻	茶生巻	木樨	萩	冬隣	若苺	路	栗
廿七	廿六	廿五	廿五	廿四	廿三	廿二	廿一	十九	十九	十八

冬籠	三	火辨	四	巨燧	四	湯燧	五
夷子鏡	二	胤	二	守	三	冬構	三
小春	一	小月	一	初冬	二	玄猪	二
秋混題	廿四	火燒名	廿三	鴨	廿三	麻	廿四
山雀	廿三	せきせいの	廿三	啄木名	廿三	鶉名	廿三
鶉	廿二	鴨	廿三	崩築	廿二	混鮎	廿二
きりり	三十	鶉	廿一	渡名	廿一	初厚	廿一
曹虫	廿九	蜻蛉	廿九	蜻	三十	冬蝻	三十
和虫	廿八	鈴虫	廿九	竈馬	三十	垣切啼	廿九
米枯	廿七	藥垢	廿七	紅葉	廿八	虫	廿八

冬之部

衾	五	蒲團	五	紙衣	五	炭	六
榻	六	圍炉裏	六	冬田	七	冬雪	七
冬川	七	冬海	七	冬山	七	冬玉	八
子燗心	八	袴着	八	後置	八	被初	八
白足垂	八	守月	九	月の裏	九	湯	九
守月	九	霜柱	九	初氷	十	為氷	十
氷	十	氷柱	十一	小窓塞	十一	鐘氷	十一
臘	十一	臘	十一	窓也け	十一	切干	十一
浅漬	十二	菜漬	十二	蕎麦湯	十二	貝焼	十二
藥漬	十二	守の入	十三	守肉	十三	守克舞	十三
守の	十三	守の	十三	煤拂	十四	札粥	十四
餅搥	十四	餅延	十四	衣配	十五	年用	十五

季木	十五	初季	十六	季名跡	十六	季務	十六
季市	十六	季市	十六	季名	十六	節分	十七
初冬	十七	厄拂	十七	追儺	十七	鬼火	十七
雜居寐	十七	季夜	十八	除夜	十八	除夜鐘	十八
霜飾	十八	時雨	十九	初霜	十九	霜	二十
冬子	二十	雪子	二十	雪朝	廿一	雪山	廿一
雪日	廿一	多雪	廿一	雪	廿二	あふま	廿二
吹雪	廿二	志守祀	廿二	神送	廿三	神童	廿三
神夜	廿三	神迎	廿三	節の日	廿四	時雨會	廿四
十夜	廿四	會式	廿四	ふんぶ	廿五	空也忌	廿五
鈴叩	廿五	大師講	廿五	報恩講	廿五	冬田刈	廿六
麦蒔	廿六	銀杏敷	廿六	枯柳	廿六	枇杷の巻	廿七

山茶花	廿七	山茶	廿七	冬枯	廿八	枯柳	廿八
枯野	廿八	枯尾花	廿九	枯草	廿九	枯萩	廿九
枯芦	廿九	石落花	三十	蕎麦刈	廿一	大根引	三十
冬木立	卅一	冬木	卅一	冬州	卅一	冬牡丹	卅一
冬梅	卅一	室の梅	卅二	子鳥	卅二	小夜子鳥	卅二
冬蝶	卅三	冬蠅	卅三	冬鳥	卅三	鴛鴦	卅三
鴨	卅四	学子写	卅四	綱代	卅四	綱代書	卅四
生海胤	卅四	牡蠣	卅五	鰻	卅五	河豚汁	卅五
鯨鱈	卅五	鱈	卅六	鯨	卅六	暖冬	卅六
寒苦冬	卅六	鷹匠	卅六	隼	卅七	鷹	卅七

俳諧叢句六百題

一月尾中茶編

春之部

非鳥

能 宿 乃 岩 知 う き り り の 新	三 ん ん の 持 と 明 々 り 初 鳥	為 を よ ま か た を 守 り 初 鳥	初 鳥 結 み た ら ば 花 は 咲 く	健 乃 と し ん ん の 初 鳥	初 鳥 結 み た ら ば 花 は 咲 く	初 鳥 結 み た ら ば 花 は 咲 く	初 鳥 結 み た ら ば 花 は 咲 く	初 鳥 結 み た ら ば 花 は 咲 く	初 鳥 結 み た ら ば 花 は 咲 く	初 鳥 結 み た ら ば 花 は 咲 く	初 鳥 結 み た ら ば 花 は 咲 く	初 鳥 結 み た ら ば 花 は 咲 く	初 鳥 結 み た ら ば 花 は 咲 く	初 鳥 結 み た ら ば 花 は 咲 く
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

四方春

汲きくろくろり明り四方は春
北 暁

初冬

去中人の誘ひ出たり四方の春
南 汀

初冬や花を以て年々計はる
西 崎

とく空を雲よりふきけり
為 山

初冬や明り町に瓦家相
高 下

まら空や秋代を初る我に
涼 土

初冬や空を初る我に
秋 武

初冬や空を初る我に
松 針

初冬や空を初る我に
柳 堤

初冬や空を初る我に
雲 海

初日

初唐

去中人の誘ひ出たり四方の春
耕 月

初冬や空を初る我に
乙 良

初冬や空を初る我に
泳 柳

初冬や空を初る我に
舞 理

初冬や空を初る我に
露 名

初冬や空を初る我に
對 古

初冬や空を初る我に
星 橋

初冬や空を初る我に
雲 涯

初冬や空を初る我に
雲 涯

初冬や空を初る我に
以 見

梅傍

梅傍りを抽く明りや井戸の蓋
宛 函子

門松

梅傍

喰積

喰積や指もさき如儀し
喰つて此齋の跡を龍の影
喰つての好何の跡を書流す
喰積より此つらむもの如く
喰つての好何の跡を書流す
喰つての好何の跡を書流す
喰つての好何の跡を書流す
喰積や指もさき如儀し

出匡
掛網

木
二
大
涼
井
組
水
小
梅
味
味
天
流
枝
子
義
口
者
柯
色
酒
敷

埋着

埋着成儀つらむもの如く
おきつたき茶をけり下り
敷のまことおれまふ市此齋
おれまふ市此齋の如始の
つめらぬものつらむもの如く
袖乃智んまふもの如く
初智の影を親を持方する
初申先かまの娘さきもの如く
まの智や知れぬ出た嫁の如
初智や知れぬ出た嫁の如
まの智や知れぬ出た嫁の如

毒
天
流
枝
子
義
口
者
柯
色
酒
敷

初智

涼
花
竹
岩
永
久
子
清
編
峰
周
号
孫
如
女

初長	貫初	素初	年玉	年素初
門の埃いんを脱ぎ以て初長外	貫初やまきも明初り裏	素初やまき身死白く家	年玉の機嫌、傳や海、古	年素初乃びり、廣き小舟、うね
其山	祀心	南村	味金	仙孝

水鏡	福引	福開	三々日
水鏡のしんを脱ぎ、水鏡の	福引や葉のよあわれ、海をりき	福開のしんを脱ぎ、福開の	人の身、初長、三々日
半月	松株	把叔	松室

ね、うら、い、れ、あ、け、く、ね、の、る、音、貫
 ち、の、や、ほ、き、枕、乃、静、子、外、二、の、静
 見、然、し、の、音、ま、さ、さ、さ、の、音、の、音、音、美
 人、の、病、つ、ま、ま、ま、中、ま、の、の、の、一、の、川
 我、情、な、め、め、一、風、名、や、ま、の、の、一、ま、
 石、意、い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、の、の、南、山
 春、る、や、う、う、中、ま、ま、ま、雪、も、ふ、う、竹、山
 街、う、う、ま、ま、ま、ま、あ、う、ま、の、の、良、炭、山
 照、光、さ、い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、の、の、斗、末、山
 橋、ま、ま、ま、の、木、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、芦、丸、山
 白、所、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、の、の、其、之、山
 ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、の、の、橋、の、音、其、之、山

春月

ね、う、ら、い、れ、あ、け、く、ね、の、る、音、貫
 ち、の、や、ほ、き、枕、乃、静、子、外、二、の、静
 見、然、し、の、音、ま、さ、さ、さ、の、音、の、音、音、美
 人、の、病、つ、ま、ま、ま、中、ま、の、の、の、一、の、川
 我、情、な、め、め、一、風、名、や、ま、の、の、一、ま、
 石、意、い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、の、の、南、山
 春、る、や、う、う、中、ま、ま、ま、雪、も、ふ、う、竹、山
 街、う、う、ま、ま、ま、ま、あ、う、ま、の、の、良、炭、山
 照、光、さ、い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、の、の、斗、末、山
 橋、ま、ま、ま、の、木、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、芦、丸、山
 白、所、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、の、の、其、之、山
 ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、の、の、橋、の、音、其、之、山

能く世す人にもうて去れ月 双馬
 けささるる子ハ物し去の月 雪
 水部へ伝籍出 去れ月 招計
 色くハ影さす木何去の月 堂直
 岸へ去る鳥の引毛や去の月 核二
 河へ板を去り河へ去の月 身即
 鳥へくハ鳥うねるや去の月 磯就
 江橋ハ影を去るや去の月 海南
 河の者ハ板を去るや去の月 惠雨
 山へくハ鳥ハ物し去の月 卜我
 さあさるる鳥ハ物 去の月 崎丸
 掛紫カクハ鳥木や去の月 物裡

雪間

残雪

雪解

神主のまの標古や去れ月 祖江
 新あさるる雪や雪名 の枯蕨 一可
 山の鳥をくハ雪雪名 一止
 くら物をくハ雪雪名 半塔
 山に雪ハ物をくハ雪 今引
 茶畑のあさるる雪 一与
 伝引く雪 岩根や去れ月 一羽
 雪とけや一枝りて雪の鳴 去即去
 荻芦の枯葉はあさるる雪解 一融
 雪とけや鳥のくハ雪 一融
 町あさるる雪解 一融
 岩根ハ雪解の漸や雪の危 思起
 思文

空とけや峰望しの字多外 美體色

空とけは竹根さの月癖うね 坦く

空とけの根さる形も空解り 白峰

空解の庵は小倉にわき枝 空子

空とけや根さるる戸抱の音 竹堂

空とけは空をむくも空解り 双柳

空とけや空解るも空解の字 既村

空とけや空解るも空解の字 流是

空とけや空解るも空解の字 葛古

空とけや空解るも空解の字 之と

空とけや空解るも空解の字 好野

空とけや空解るも空解の字 青外

流解

長宗

長宗は小解るも空解り 備の目

長宗は小解るも空解り 坦く

長宗は小解るも空解り 東程

長宗は小解るも空解り 一馬

長宗は小解るも空解り 善水

長宗は小解るも空解り 好南

長宗は小解るも空解り 古風

長宗は小解るも空解り 古風

長宗は小解るも空解り 文園

長宗は小解るも空解り 祖心

長宗は小解るも空解り 具左

長宗は小解るも空解り 仙老

春水

流解

流解

流解

流解

流解

流解

流解

流解

流解

流解

流解

流解

新詠

初年や出づけしあはる小土器 担
 初年や持りてあはる風乃吹 子
 初年や世しお梅をいへる 蕭
 初年や銅器の如くあはる 好
 初年や人まゝあはる 貝
 初年や 孟也とあはる 樵
 字多しりあはる 和
 初風の世路は 如
 あはる 杖の文部 懐
 杖の室相 吹く 組
 杖をなす 杖つ 組
 杖もあはる 傷る 組
 杖 杖 杖

彼岸

春下し

新詠

永日

初年や出づけしあはる小土器 担
 初年や持りてあはる風乃吹 子
 初年や世しお梅をいへる 蕭
 初年や銅器の如くあはる 好
 初年や人まゝあはる 貝
 初年や 孟也とあはる 樵
 字多しりあはる 和
 初風の世路は 如
 あはる 杖の文部 懐
 杖の室相 吹く 組
 杖をなす 杖つ 組
 杖もあはる 傷る 組
 杖 杖 杖

梅

まのわらう雪もぬくはる来り 五渡
 雲乃つもやの來る朝の田 菊
 雪の坂下板敷より來るつゝ 輝
 山はあの人なつこころの來る時 洗
 雪の來るこころの來る時 桃
 雪の來るこころの來る時 池
 又一年つゞく雪の來る時 鬼
 雪の來るこころの來る時 何
 雪の來るこころの來る時 鼎
 雪の來るこころの來る時 志
 雪の來るこころの來る時 直
 雪の來るこころの來る時 有
 雪の來るこころの來る時 為
 雪の來るこころの來る時 山
 雪の來るこころの來る時 左

こゝの梅も雪の來る時 惠
 雪の來るこころの來る時 来
 雪の來るこころの來る時 柳
 雪の來るこころの來る時 花
 雪の來るこころの來る時 光
 雪の來るこころの來る時 奴
 雪の來るこころの來る時 石
 雪の來るこころの來る時 梅
 雪の來るこころの來る時 春
 雪の來るこころの來る時 柳
 雪の來るこころの來る時 春
 雪の來るこころの來る時 柳
 雪の來るこころの來る時 春
 雪の來るこころの來る時 柳
 雪の來るこころの來る時 春
 雪の來るこころの來る時 柳

蒲之英

松の木の中へ風よもよめぬうら	あな眠のあつたすれぬ董うら	こゝろおぼろぬかやつて董	あつた風の宿きを寝たすれぬ	蒲之英やゆつたのよほり	あつたあつた破れぬ小窓	蒲之英や著のうらやせのう	たんのや梅もよよあつたあ	あつたのよ梅もよよあつたあ	あつたあつたあつたあつた	あつたあつたあつたあつた	あつたあつたあつたあつた
河	村	花	吹	の	窓	英	城	形	好	龍	加

梅之

上筆

初花

初梅

初花やと花をいふは	あつたあつたあつたあつた	あつたあつたあつたあつた	あつたあつたあつたあつた	あつたあつたあつたあつた	あつたあつたあつたあつた	あつたあつたあつたあつた	あつたあつたあつたあつた	あつたあつたあつたあつた	あつたあつたあつたあつた	あつたあつたあつたあつた	あつたあつたあつたあつた
梅	好	龍	加	龍	加	龍	加	龍	加	龍	加

新	山	知	好	良	和	南	春	流	青	一
六	川	梅	野	和	枝	枝	宮	芝	雲	共
新	知	梅	好	良	和	南	春	流	青	一
六	川	梅	野	和	枝	枝	宮	芝	雲	共

待花

被岸梅

無梅

花曇

花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花
花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花
花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花
花	花	花	花	花	花	花	花	花	花	花

雨花

花

今もいづれしと世のまゝ
 風も形もわかれぬと
 吹かすもたれりや
 葉もあつたふむり
 月もあつたふむり
 花もあつたふむり
 石もあつたふむり
 木もあつたふむり
 山もあつたふむり
 水もあつたふむり
 土もあつたふむり
 空もあつたふむり

八二十八

松

花もあつたふむり
 葉もあつたふむり
 枝もあつたふむり
 幹もあつたふむり
 根もあつたふむり
 目もあつたふむり
 山もあつたふむり
 水もあつたふむり
 土もあつたふむり
 空もあつたふむり

尾五匹水音 夕 換
 芳ノ灯ノ袖ノき 夕 換
 子ノ戸此記ノし 夕 換
 換ノもやま 夕 換
 あゝとく 夕 換
 折ノ消き 夕 換
 咳ノん 夕 換
 洗ノし 夕 換
 掃ノ海 夕 換
 一ノ世を 夕 換
 夕ノ吾 夕 換

栴

此村と子信のき 栴
 知記の末とされ 栴
 栴さんやまを 栴
 弓引く 栴
 作ノし 栴
 新ノし 栴
 内業やま 栴
 海業の 栴
 海業や 栴
 かゝる 栴
 海業や 栴

海業

菊苗

植ゆゑのてしつゝ和や葉の苗 嵐高
 葉苗と指す、所や油筒 文叔
 葉の河、お新ら丸葉の苗 田舎
 葉はうゝてきく苗分り知我 孝層
 葉苗や命時き、黄い抽 末足
 葉人苗や人の極、こいつく 祖心
 兄や弟てふ名、葉の根分我 御風
 菊着、し、根分、人十細の葉 赤丈
 何ふは、あゝ、葉の根分我 瓦村
 つゝあま、ぬ、や茶畑の節分、 深、
 葉も、す、け、し、葉茶つゝ、く、叶 一、具
 我、家、を、つ、つゝ、葉を、つ、つ、細、我、 河、堂

茶橋

葉根分

葉

葉中、く、す、し、州、新、の、月、 肩、白
 う、と、む、こ、和、葉、の、節、分、の、身、上、り、 雪、堂
 葉、の、中、の、あ、ま、は、れ、は、れ、き、り、 雪、打
 葉、や、お、新、ら、丸、葉、の、節、分、 樹、岐
 葉、や、お、新、ら、丸、葉、の、節、分、 赤、雲、如
 葉、や、お、新、ら、丸、葉、の、節、分、 河、心
 葉、の、あ、ま、は、れ、は、れ、き、り、 也、翠
 葉、や、お、新、ら、丸、葉、の、節、分、 好、浦
 葉、や、お、新、ら、丸、葉、の、節、分、 馬、山
 葉、や、お、新、ら、丸、葉、の、節、分、 湯、素
 う、と、む、こ、和、葉、の、節、分、の、身、上、り、 蓮、風

河の中	新	名	好	吹	雪	草	水	言	乙	既	可	一	立	未											
河	橋	欄	の	似	の	揚	る	我	先	様	子	四	玉	好	る	雪	草	水	言	乙	既	可	一	立	未
河	橋	欄	の	似	の	揚	る	我	先	様	子	四	玉	好	る	雪	草	水	言	乙	既	可	一	立	未

雪

吹

雪

橋	の	口	新	の	柳	や	雪	の	身	好	る	雪	草	水	言	乙	既	可	一	立	未
橋	の	口	新	の	柳	や	雪	の	身	好	る	雪	草	水	言	乙	既	可	一	立	未
橋	の	口	新	の	柳	や	雪	の	身	好	る	雪	草	水	言	乙	既	可	一	立	未

引新

引物

引倉

引新
引物
引倉

蝶

蝶

蝶

蝶
蝶
蝶

綴括

築るるよはるるるもはる 給る給
 給る給るも給る給るも給る給る
 給る給るも給る給るも給る給る
 給る給るも給る給るも給る給る
 給る給るも給る給るも給る給る
 給る給るも給る給るも給る給る
 給る給るも給る給るも給る給る
 給る給るも給る給るも給る給る
 給る給るも給る給るも給る給る
 給る給るも給る給るも給る給る

編也 充美 清味 雲黄 赤女 如翠 山翠 兔白 保水 五渡 素山

澁佛 夏上

澁佛や人志はまゝくはの風
 澁より身は清く先の方より
 水より心は静く先の方より
 山より心は清く先の方より
 水より心は静く先の方より
 山より心は清く先の方より
 水より心は静く先の方より
 山より心は清く先の方より
 水より心は静く先の方より
 山より心は清く先の方より

澁山 清風 保那 五渡 赤女 如翠 山翠 兔白 保水 五渡 素山

夏落

筑下架

築下架の多き架り我
 築下架の多き架り我
 築下架の多き架り我
 築下架の多き架り我
 築下架の多き架り我
 築下架の多き架り我
 築下架の多き架り我
 築下架の多き架り我
 築下架の多き架り我
 築下架の多き架り我

一好 筑高 赤女 如翠 山翠 兔白 保水 五渡 素山

短夜

高の松や又由見の松 里の馬
 短松や馬より大馬の松 出まき
 高の松や馬より大馬の松 出まき
 高の松や馬より大馬の松 出まき
 高の松や馬より大馬の松 出まき

可 藩
 緑 嶽
 南 汀
 梅 堂
 龍 丸
 由 友
 一 旭
 風 禰
 出 遠
 出 風

何屋敷

懶

懶の如く 高の松の如く
 高の松の如く 高の松の如く
 高の松の如く 高の松の如く
 高の松の如く 高の松の如く

懶 下
 直 下
 如 下
 竹 下
 萱 下
 早 下
 市 下
 双 下
 長 下
 文 下
 月 下

鳥

鳥の如く 高の松の如く
 鳥の如く 高の松の如く
 鳥の如く 高の松の如く

鳥 下
 文 下
 月 下

五月

幟

初幟

此の人は新田	起す成性	二南	江	三
引沙の之寸	百々	五月	成	涼
義実子	播人	五月	成	涼
あつと	五月	成	涼	石
川春の言	を	五月	成	涼
河	五月	成	涼	山
あつと	五月	成	涼	井
川	五月	成	涼	折
向	五月	成	涼	南
縣	五月	成	涼	瓦
名	五月	成	涼	如
小	五月	成	涼	部

勝覽

世出

萬籟

此の人は新田	起す成性	二南	江	三
引沙の之寸	百々	五月	成	涼
義実子	播人	五月	成	涼
あつと	五月	成	涼	石
川春の言	を	五月	成	涼
河	五月	成	涼	山
あつと	五月	成	涼	井
川	五月	成	涼	折
向	五月	成	涼	南
縣	五月	成	涼	瓦
名	五月	成	涼	如
小	五月	成	涼	部

糙

糙のこゝろも ありき 糙

雪登

十五

糙のなかへ 糙の中を 糙

鬼阿佛

糙のこゝろも 糙のこゝろ

糙の女

糙のこゝろも 糙のこゝろ

糙の山

糙のこゝろも 糙のこゝろ

糙の山

糙のこゝろも 糙のこゝろ

糙の山

糙のこゝろも 糙のこゝろ

糙の山

糙のこゝろも 糙のこゝろ

糙の山

糙のこゝろも 糙のこゝろ

糙の山

糙のこゝろも 糙のこゝろ

糙の山

糙のこゝろも 糙のこゝろ

糙の山

相餅

相餅のこゝろも 相餅のこゝろ

相餅の山

相餅のこゝろも 相餅のこゝろ

相餅の山

相餅のこゝろも 相餅のこゝろ

相餅の山

相餅のこゝろも 相餅のこゝろ

相餅の山

相餅のこゝろも 相餅のこゝろ

相餅の山

印地打

印地打のこゝろも 印地打のこゝろ

印地打の山

印地打のこゝろも 印地打のこゝろ

印地打の山

総馬

総馬のこゝろも 総馬のこゝろ

総馬の山

総馬のこゝろも 総馬のこゝろ

総馬の山

総馬のこゝろも 総馬のこゝろ

総馬の山

総馬のこゝろも 総馬のこゝろ

総馬の山

総馬のこゝろも 総馬のこゝろ

総馬の山

総馬のこゝろも 総馬のこゝろ

総馬の山

総馬のこゝろも 総馬のこゝろ

総馬の山

総馬のこゝろも 総馬のこゝろ

総馬の山

総馬のこゝろも 総馬のこゝろ

総馬の山

総馬のこゝろも 総馬のこゝろ

総馬の山

有善

有善のこゝろも 有善のこゝろ

有善の山

有善のこゝろも 有善のこゝろ

有善の山

有善のこゝろも 有善のこゝろ

有善の山

有善のこゝろも 有善のこゝろ

有善の山

有善のこゝろも 有善のこゝろ

有善の山

有善のこゝろも 有善のこゝろ

有善の山

汗拭

子不きふ口穿さく西のり水 一 旭
 しい汗は汗ぬあふふの今我 能 淵
 物中をいん汗らふい。今ふふ 踏 巨
 曇相のぬらふらふり。今り即 可 有
 持後へ手拭ふき口のきり南 回 着
 激きふをいんふらふ。今我 性 即
 今月子の今をきむ性未成 言 子
 相を直す。今ふ汗ぬらふ。今が 言 息
 加らふふき夏の多し。汗拭い 一 甚 丸
 極きふ。水ふそふや汗ぬらふ 一 之
 紫垣やきく。乾之汗拭い 而 所
 師の汗はぬらふ。今が 美 家 世

初

をふれ給の身。百を干也。初の汗 一 之
 初。汗を乾きぬ。夏の細 祖 以
 海名中。初へ四。初。初。 乾 淵 子
 初。初。初。初。初。初。 美 陽
 初。初。初。初。初。初。 出 号
 初。初。初。初。初。初。 彌 也
 初。初。初。初。初。初。 柳 下
 初。初。初。初。初。初。 梅 宝
 初。初。初。初。初。初。 文 友
 初。初。初。初。初。初。 岩 川
 初。初。初。初。初。初。 尺 池
 初。初。初。初。初。初。 之 初 里

水賣

心方

水賣此水前あり月夜故
 水くや清き物もあつ
 色くつ了ん世木新や心方
 公署のちあもつ月夜心方
 最中や喰ぬ物うねあふん
 梅もくす折し清水や心方
 味もつんくす心方
 海の新水心方
 深き井のきすつん心方
 汲干了月夜あつ一茶酒
 写来くすも出な多一茶酒
 あり多針を刺し隙や心方

造 測 物 旗 汀 柳 青 橋 呉 考 如 松 真 字 燒 行 一 旭 二 程 甲 標 竹 登

一夜酒

冷机

雪峰

冷机 涼風下るを机の風情う好
 市中や日暮り水子涼
 献立乃お子出多中机
 多子す急くむく子業和涼
 地子急の下りつらぬや雪の峰
 雪の峰月を照し雪れり
 松下は雪の猫や雪の峰
 名もの之給立や今城寸川向ふ
 舟場も雪を足さ雪や雪の峰
 雪の峰も雪を足さ雪の峰
 雪の峰も雪を足さ雪の峰
 海東や雪を足さ雪の峰

古 翠 塞 馬 任 朝 純 白 季 吹 樂 理 一 素 山 山 友 甫 保 水 雪 橋

日盛

夕立を掃く	夕立のあち	夕立の濁り	夕立やね	夕立の止	夕立の	夕立の	夕立の	夕立の	夕立の	夕立の	夕立の	夕立の	夕立の	夕立の	夕立の
六	源	斗	月	梅	乙	梅	芭	清	越	素	向				
家	中	来	松	青	二	九	水	夫	向						

夕立

源

納涼	月	暮	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
納涼	六	源	斗	月	梅	乙	梅	芭	清	越	素	向			
納涼	家	中	来	松	青	二	九	水	夫	向					

納涼

納涼

合歡の葉を足す枝の末すゝき
 月うさぎの葉をわづる納涼草
 子枕を幾度うへて申す納涼
 直ふ樹子梅もあさす涼も我
 茶やまきすゝきや相一本
 枯かりまぜし納涼の草
 尋らる子もあつちや梅すゝき
 以方へ斗り人申す納涼我
 橋よりあや涼にわづる人さす
 申すも常々出たり夕まふ
 申さふては池樹の下に涼を我
 水着をおもふ涼もさす涼もさす

一具
 小艇
 愚山
 兔白
 性号
 支山
 遠野
 深野
 峰丸
 一素
 栗人

十三

六

打水

打水のまの枝をわづるや垣の由
 おもやう階の窓の下りてあつち
 うま水や庭よりあつち一羽
 おもはれをうへ流すや池り流
 打水やものも徳もなをとり
 さし井や祝けり顔のまや梅
 さし井や夕影けり水のまむ
 睡井のくぬきをわづる木のり我
 さし井や梅もあさす涼の草
 吹返り涼もあつち馬のりや
 奈にうへてあつちの清水我
 流もあつちのあつちや梅の門

智黄
 素年
 菰里
 井空
 素山
 寺堂
 由塔
 阿人
 乙良
 得基
 米山
 柳香

清水

由那打... 其... 香...
 濁... 其... 香...
 岩を打... 其... 香...
 州... 其... 香...
 水... 其... 香...
 志... 其... 香...
 積... 其... 香...
 川... 其... 香...
 川... 其... 香...

川將

形代

川社

御後

形代... 好... 浦...
 形代... 柳... 似...
 袖... 為... 山...
 星... 可... 蒲...
 老... 一... 之...
 石... 一... 具...
 水... 伯... 彦...
 水... 磯... 成...
 水... 無... 野...
 水... 九... 祀...
 水... 文... 叔...
 水... 一... 圃...

郭公

竹まきうらふ無吹とらふ小梅うら
 流とるそ夜ふたれう後のか
 響ふ板かしのこ縁し後乃板
 風とを来る高き北時名
 福の考を袖うしとれ穿
 ねのこハまの野山や時名
 ねとる次時や足高寸小和系
 一こ高き時や海一の時名
 ありし梅子えぬ冬燕一郭公
 守とるこ山海ちここ時名
 油燈子ありし木雲やあき次
 明る板や雲のこ縁あきき次

貝 小 性 如 意 文 風 坦 清 祖 乙 子
 所 船 船 儀 完 号 々 民 以 良 子

閑古舟

光考

山子飽時子あき里子閑古舟
 不古舟漕をんこく漕多舟我
 進坂や道ふもあき保古舟
 一ねの流りのあき中閑古舟
 人通り嬉ふもねし不古舟
 考中老とあき考ここ一考
 今考一考考あきしとれあし
 考の考あきし中ねしとれ
 考乃の考考考考考考考考
 山流の考考考考考考考考
 考考考考考考考考考考考考

把 良 象 考 呂 丁 龍 閑 保 小 一
 叔 炭 雄 阿 川 知 木 号 之 那 船 考

新川

白 新川 白 新川 白 新川 白

鴉舟

白 鴉舟 白 鴉舟 白 鴉舟 白

新子

由 新子 由 新子 由 新子 由

新匠

只 新匠 只 新匠 只 新匠 只

浮葉

一 浮葉 一 浮葉 一 浮葉 一

鴨子

浮 鴨子 浮 鴨子 浮 鴨子 浮

羽後舟

白 羽後舟 白 羽後舟 白 羽後舟 白

通鴨

白 通鴨 白 通鴨 白 通鴨 白

つ 鴨 白 鴨 白 鴨 白

編編

うき沈むはまのすかすか 鴨 石家
 殊にききぬまは江中 余遊
 編編 和風えんきき 友南
 編編 中月の出く 百来
 の新しき空に出うけ 好静
 編編 中月の出く 可多
 の新しき空とけり 善水
 水の中や動け 祖々
 とのしき空の 味今
 中月の出く 栗人
 手をまねて大川に 友南
 奥野

蟻

初蟻

蛙

毛虫

了子

水馬

枝蛙 口の反り 素業
 とまの 枝蛙 常五
 虫の 枝蛙 竹音
 除く 枝蛙 紫遊
 見と 枝蛙 嵐高
 弱し 枝蛙 直有
 木 枝蛙 一羽
 照り 枝蛙 善水
 了子 枝蛙 一の篇
 了子 枝蛙 結解
 了子 枝蛙 一也
 水馬 枝蛙 昔丸

繩 經

新丹の舞殿しりり水馬 考考
 ありし麓のまきしはまきあ 嘉年
 油際へまきまき返る水すし 佳歌
 油抽きまきまきや路のまき 英泉
 一人はまきのまきまき 阿水
 山道のまきまきまきのまき 粟人
 まきまきまきまきまきのまき 中人
 繩はまきまきまきまきのまき 暮海
 何ぞまきまきまきまきのまき 吾堂
 笛まきのまきまきまきのまき 雙六
 まきまきのまきまきまきのまき 御風
 抽くまきのまきまきまきのまき 半月

救柱

初を

救柱のまきまきのまきまきのまき 一止
 まきまきのまきまきのまきまきのまき 藤里
 まきまきのまきまきのまきまきのまき 三末
 まきまきのまきまきのまきまきのまき 好静
 救柱のまきまきのまきまきのまき 泉峰
 子供まきのまきまきのまきまきのまき 松室
 根のまきまきのまきまきのまきまきのまき 傍外
 まきまきのまきまきのまきまきのまきまきのまき 横二
 又一度まきのまきまきのまきまきのまきまきのまき 末室
 まきまきのまきまきのまきまきのまきまきのまき 紫江
 初まきのまきまきのまきまきのまきまきのまき 龍友

人の聲はくもくも新柳哉 素山
 二階うら見替り寸節の新柳うき
 白く小川の青き新柳哉 青府
 人きり種り柳くまん柳うれ 寺谷
 後一人の下姑きそり新柳哉 婦牛
 月も柳風ゆるき成りう柳 如南
 古風の柳ゆき成りう柳 山外
 おらぶらう川うら成りう柳 南汀
 柔き柳柳一葉り成りう柳 直有
 柳結のきりきり成りう柳 河曉
 汐の青き多けし柳き成りう柳 庭石
 赤きくは汐の海きり成りう柳 杜山

辰

桑柳

桐花

櫻花

桑柳のあふるる 棠う柳 嶧丸
 桑柳のそらきり 新哉 吾院
 まゆりまゆりたるはる川 阿し山 院来
 門掃ききりあや相のむ 多うめ
 雪と柳風の中や相のむ 白紙
 朱花のあふる地やきり此也 雪黄
 赤くまのりや柳や相のむ 菅丸
 新きやむ美路や相のむ 伯志
 柳木の供へるきり此也 一且
 春やきり柳のむあおれ 小柯
 ひとあきり柳のむあおれ 城彦
 川越るきり柳のむあおれ 惟富

抽花

一具
 惟字
 吾堂
 新南
 其米
 一馬
 南汀
 紫英
 出度
 在室

多々中々里人を信しむ橋
 木柱をとりおしむるむ抽成
 眼子高きも多しむらきむ抽引
 又々夜子高傳りぬむ抽りぬ
 唯字一々むむ抽成いりり
 出寸らむしりるむむ抽成
 抽のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ

卯花

牡丹

保外
 七也
 一具
 木繩
 宗二
 赤丸
 双柳
 由契
 稻州
 永城

八月の初め卯はま牡丹の卯
 おもあひいへるも牡丹の蒼りき
 夕雲のむらつきも牡丹の卯
 唯字一々も多しむらきむ抽引
 又々夜子高傳りぬむ抽りぬ
 唯字一々むむ抽成いりり
 出寸らむしりるむむ抽成
 抽のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ

芍薬

芍薬のむらつきも牡丹の卯
 おもあひいへるも牡丹の蒼りき
 夕雲のむらつきも牡丹の卯
 唯字一々も多しむらきむ抽引
 又々夜子高傳りぬむ抽りぬ
 唯字一々むむ抽成いりり
 出寸らむしりるむむ抽成
 抽のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ
 卯のむ中夜本むむぬぬぬぬ

杜若

若菜や人を獲るは地味
 申しはては紋もあやかし
 多きも花も咲くはついで
 層々層々ついでに咲く
 杜若の匂いのは井戸の底
 水は清く流るやふれ杜若
 花も咲くはあやかし
 二支しは曳と流るや杜若
 境内乃とあやかし
 杜若の匂いのはあやかし
 南を千坪の地を杜若

清民 深那 言和 為山 蕙水 洗之 李町 而店 馬山 東桑 友徳 徳江

南天

山権子

柿花

竹植

南天のむやあやかし
 山権子のあやかし
 之を野におきとあやかし
 山権子のあやかし
 柿花のあやかし
 あやかし
 柿花のあやかし
 竹植のあやかし
 竹のあやかし
 竹のあやかし
 竹のあやかし
 竹のあやかし

小 川 文 祖 抱 好 乙 瓦 乍 伯 丁 善 水
 栞 善 碯 以 叙 南 良 村 人 老 知 水

藤子

かりすむ家も井を植ふ
 植取の 新なる井の馬取は
 植ふ時 一枚の言ふ井の高
 井へく石垣をくまなく
 月影やるるまじく井の横は
 井へくまじくあきお貸吐
 すのふまのふ 細く細く
 古くもや流るる ありぬ水
 筆の傍ののりふ井の陰
 井の子や木まじりく 雨も
 多けのふ地をくまなく
 きてきや 岩もくまなく

田舎
 白紙
 言岩
 花径
 子相
 梅二
 阿
 江之
 白紙
 由共
 多
 梅家

菊

栗のむ

桜花

ひとけしめて 庭中栗のむ
 押あの中や五葉 久まのむ
 おりたるむおき家や栗のむ
 所系栗のぬや合飲のむ
 杖をふくま 立ぬ合飲のむ
 留をを清る合飲し 秘むのむ
 けふ昔のむ 成にし秘むのむ
 豆や久流るる あり合飲のむ
 合飲暖やうし ありぬ職の家
 子や樽のあり 成にし秘むのむ
 あり向を 風折坂や秘ふのむ
 川矢を 想あむ 秘のむ

嵐高
 双危
 祖心
 一素
 乙良
 清既
 菅丸
 老年
 汀柳
 青林
 里忠
 招儀

葉實

ぬき推し一葉子願やふれ梅 雁 ぬ
 青くぬやうの葉も友らこり
 葉の實の想をのねる者うり
 今更のふ中 臣者のしとるの多
 葉の實と誰か見る 梅 紙 一 之
 新市や眼つき安き初葉子 尺 池
 鹿も推し 日 標乃おや初葉子 可 色
 葉と人、又ふるさうもつ葉子 河 以
 世のわとまてぬつしやまの葉子 世 例 ぬ
 きのふまをむておしは初葉子 應 多
 形もふんご程のつくりの葉子 只 侍
 手解りハ頭して葉の葉子うり 吳 考

初葉子

葉子

百合子

花々人鹿の掃路やる合のむ 保 有
 山をや葉の本かふね 申りのむ 葉 陽
 新法ち葉の上ぬり申りのむ 有 子
 出けりおと流ぬりぬり百合のむ 台 人
 おもるや花向ふし申りぬりぬ 如 南
 本にししと葉の葉の合のむ 半 松
 葉の葉や昔かたの葉の先更輝 三 葉 輝
 四百年をえは葉の葉の葉も葉 由 葉
 葉の葉や昔かたの葉の葉も葉 瓦 村
 五百年を眼力ぬりぬりぬりぬ 知 吟
 五百年を人まらぬりぬりぬりぬ 止 好
 五十年の葉も葉も山白いぬり 葉 考

葉前

夏草

若花

五原の中はまゝに... 女人堂 栄遊
 夏州の宿や... 二新
 朝冬... 池
 湖... 園
 柳... 柳
 多... 多
 唐... 唐
 田... 田
 山... 山
 小... 小
 和... 和
 吉... 吉

酸漿

花より

紅... 紅
 紅... 紅
 紅... 紅
 紅... 紅
 紅... 紅
 紅... 紅
 紅... 紅
 紅... 紅
 紅... 紅
 紅... 紅

夕魚

草蒲

夕... 阿
 夕... 伯
 夕... 三
 夕... 老
 夕... 岳
 夕... 一
 夕... 牛
 夕... 精
 夕... 小
 夕... 和
 夕... 水
 夕... 柳

花苜蓿

不苜

浮馮

望と栢抄うけと苜蓿あめ苜蓿 可有
 新海は苜蓿とれある苜蓿成 年月
 と新い苜蓿をむの苜蓿あめ苜蓿 流苜
 さめけと苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿 抱叔
 くれ苜蓿中い苜蓿苜蓿あめ苜蓿 丁知
 本母と苜蓿苜蓿の苜蓿あめ苜蓿 伯老
 さめけと苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿 由地
 不苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜 波路
 不苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜 小物
 不苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜 瓦村
 不苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜 祖伯
 不苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜苜 人

早松茸

藤也

苜

遊抄一藤子の遊う早松茸 只流
 さめけと苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿 芳山
 苜蓿の苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿 南枝
 夕影や苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿 味本
 苜蓿の苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿 惟孝
 さめけと苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿 一唱
 新い苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿苜蓿 枝玉
 苜蓿や苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿 流南
 さまえの苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿 系久
 苜蓿い苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿苜蓿 古柳
 さまえの苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿 河晚
 苜蓿の苜蓿い苜蓿苜蓿苜蓿 青女

